

調査報告概要表

作成日 2007年7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670104548
法人名	医療法人 敬天会
事業所名	グループホームいしき
所在地 (電話番号)	鹿児島市伊敷台4丁目34-50 (電話)099-229-1010
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月2日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年8月22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 16

(2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	実費+9,000前後	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	今給黎総合病院 伊敷台内科 くすき歯科 延寿堂クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部の閑静な住宅街にある都市型グループホームである。家庭的で落ち着いた色調の室内には、季節の花々がさりげなく飾っており、利用者はそれぞれに心地よい場所を持ち生活している。看護職であり認知症ケア専門士の資格を持つ管理者は、全職員がケアプランを把握しやすいようにカーデックスを利用するなど工夫し、医療面だけでなく、介護面でも利用者を支えている。職員の介護に対する意欲も高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の明示については、玄関をはじめホーム内の見やすい場所に明示している。共有空間では、個人の居場所を確保できるような仕切りカーテンを施し、利用者自らの活動意欲を触発する物品の工夫もしている。介護計画の作成、見直しについては、管理者交代後はきちんと管理をし、見直しもしている。職員のケアへの指導や栄養士の協力、洗剤の管理等の取り組みも図っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が主に行い、全職員の話し合いまでには至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域包括支援センター職員と利用者家族等に対して状況報告をするとともに、行事に関することや入居対象者についての意見をだしてもらっている。今後は、地域との連携について検討していく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便り「いしき通信」にて毎月報告をしている。家族の来所時等に、時間をとって聞き取りをし相談苦情を言ってもらい、その内容に対しては職員で話し合い結果を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣小学校の体験学習を受け入れたり、夏祭り等の行事に地域の方々を誘ったりと少しずつではあるが交流が始まっている。地域自治会にはまだ加入しておらず、民生委員との連携を図っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来のホームのケア理念はあるが、地域密着型としての検討はまだなされていない。	○	今後の取り組みとして、地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念づくりを検討されたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り後に唱和し、理念の共有・実現を図っている。職員は、利用者が安心した生活を送れるように、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員との連携は図っているが、ホームとして自治会等への加入はしていない。近くの小学校の体験学習を受け入れており、夏祭りなどの行事に参加してもらっている。	○	自治会や地域に向けての通信方法を模索段階なので、職員全体でより検討を深めてもらいたい。また、ホームを受け入れてもらうための取り組みに関しては、運営推進会議で行政担当者や地域の協力者の意見をもらいながら、継続的かつ積極的に取り組むことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義は理解しているが、自己評価やその結果については全職員で取り組んでいるとは言い難い。前回の外部評価の結果については、管理者を中心に話し合いをして、取り組みをしている。	○	自己評価は、職員全体として取り組んでもらうよう期待したい。また、外部評価の結果を踏まえた改善計画を作成し、今後はより積極的に取り組んで欲しい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や利用者家族の出席のもと開催している。ホーム側からの報告だけでなく、それぞれの立場から意見を出してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事や問題発生時に連絡をとっている。運営推進会議以外の行き来はあまりない。	○	ホームに関することを市町村担当者に知ってもらうことは、地域密着型を考える上で重要なことなので、行事案内やホーム便りを配布するなどして、担当者との関係づくりを図って欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の生活ぶりを伝える「いしき通信」を家族へ送り、金銭管理の報告もきちんとしている。	○	職員と家族の信頼性の観点から、職員の異動等の報告は大切であるので、今後は異動等の報告方法についても検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際に話をするので、気軽に意見や要望を出してもらい、その結果については報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は、馴染みの関係づくりを重視し、異動や離職を最小限にするよう努力している。職員交代時には、今までのケアが継続できるよう、申し送りノートで確認をするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会や隣接の関連施設の研修会に自主参加している。	○	年間を通しての段階的研修計画を検討するとともに、ケアの継続性や質の向上のためにも研修記録(参加者・日付・内容等)を残すことが望ましい。今後の課題を検討した、研修内容の組み立てを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会や認知症ケア専門士のネットワークに加入し、交流している。	○	管理者は同業者との交流機会があるが、職員は個人レベルでの情報交換にとどまっているため、地域の同業者との交流や相互研修を行って欲しい。職場外の意見を聞くことで、サービスの質の向上へとつながるため、積極的な取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に、本人や家族等に見学してもらい、状況をみて一日体験も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	業務をする際も、なるべく利用者の近くであることを心がけ、利用者の生活歴を把握しながらともに活動している。料理の味見や裁縫など日常生活の中で利用者へ指導をもらっていることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援内容等は、利用者の意向にあわせて行っている。また、外出援助も一人ひとりの希望に副うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、利用者や家族の意見をもとに、ミーティング時に職員と話し合いながら計画を作成している。作成した計画書は、カーデックスに挟み机の上に置くことで、職員が確認しやすいよう工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとケアの成果を、職員間だけでなく家族とも話し合っており記録もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対し、通院支援や個別送迎をしている。家族宿泊時の食事(実費)や布団貸し出しサービス等、柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望のかかりつけ医と連携を図り、各科の協力医療機関からも定期的あるいは緊急時にも診療協力をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望により、重度化した利用者のケアを一時的に行ったことがあり、「重度化した場合の指針」の作成を認める。	○	ホームとしての方針をできるだけ明確にし、また職員間でも共有し、必要な知識・技術の習得に努められたい。重度化に伴う利用者や家族の不安も大きくなることから、ホームとして出来ることと出来ないことを早期に伝え、対応方針の共有化を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いは適切であり、職員は利用者に対して、尊厳に配慮したケアが出来るように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴好きの方や晩酌をしたい方など、一人ひとりのペースややりたいことを尊重し、利用者の希望に副った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、ともに食事の配膳や下膳、台拭き等を一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴曜日は決まっているが、ユニット間を行き来することで、毎日でも何回でも入浴は可能である。入浴時の見守りや声かけは徹底している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木の水やりや洗濯物たたみ、新聞取りなど日常の様々な場面で役割ごとがあり、一人ひとりの出番があるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事計画以外でも、近くのスーパー等にも出かけて行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っており、外出したい様子が見られる利用者には、一緒に散歩をしてみわるなどの対応を心がけて安全面にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年2回の防災訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。	○	今後は消防関係者だけでなく、地域自治会の協力を求め、地域住民参加型の災害対策を推進して欲しい。また、飲料水等の緊急用の備蓄も検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼能力に応じて摂取形態を変え、支援している。関連施設の栄養士の指導のもと、バランスのとれた献立となっている。個別の摂取記録の記入も整理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々をたくさん飾り、室内の色合いもやさしい落ち着いた空間となっている。利用者もそれぞれの場所で心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品のほか、テレビ等の電化製品も自由に持ち込んでおり、それぞれの大切な物に囲まれて居心地良く暮らし、職員はプライバシーを大切にした支援を行っている。		